

【施策評価調査】

施策名	1-1-2	宝積寺駅西第二土地区画整理事業	70	施策目的	政策「1-1.計画的な市街地整備」を実現するためには、快適に暮らせるまちづくりの実現に向け、区画整理事業を計画どおりに実施すること、宝積寺駅周辺地区を整備し、利用性の向上を図ること、景観条例を制定し、良好な景観を形成すること、 ですが、そのうちこの施策については、の快適に暮らせるまちづくりのために、駅西第2地区の良好な住宅環境を形成する上で、関係者の意向を把握し、合意形成を図ることとします。
担当部課	建設産業部都市整備課	担当 リーダー	都市整備担当 阿久津 靖	施策内容	平成18年度に住民意向調査を実施し、住民ニーズを把握した上で、宝積寺駅西第二土地区画整理事業を進めます。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
環境変化	宝積寺駅西第一土地区画整理事業の期間を3年間延伸し、平成23年度完成を目標に変更された。				

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：事業計画作成 (%)	平成17年度進捗率	計画	30.0%	50.0%	70.0%	100.0%	
	0.0%	実績	30.0%	50.0%	50.0%		
指標：移転件数	平成17年度未着手	計画					100.0%
	0.0%	実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	1,300,000	50,000	50,000		
決算	1,050,000	0	0			

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
合意形成事業費	当初 50,000	事業計画作成	A	事業を実施するうえで、地権者の意向が最も重要であり、合意形成が不可欠である。そのため、事業手法や計画の策定は合意形成後の作業である。			
	決算 0	0% / 50%		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

施策事後評価 20年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価		課題と今後の方向性	
	平成19年度に立ち上げた研究会に加え、さらに別の地区においても研究会を組織し、計8回の勉強会を実施した。研究会に参加した住民の意向は、概ねまちづくりの必要性は認識しているが、事業の手法については様々な意見があり、最良の手法で整備できるようにさらに研究を重ね、合意形成を図ったうえで事業計画を策定する必要がある。		研究会に参加していない住民もあり、また参加率も低下傾向にあるため、これまでの研究会のあり方やプロセスを検証する必要がある。また、今後、後期計画に事業の整備方針等を提示する必要もあり、効率的に施策を展開していかなくてはならない。	
総合評価	<p style="text-align: center;">■ 総合評価 ■</p> 合意形成に向け地道に施策展開をしていることを評価するが、一部の関係者のみならず、関係者全体でまちづくりの手法を十分協議・検討することはもちろんだが、今までの手法を検討した上で、合意形成に向け、そのプロセスの中で効果的な施策展開をしていくこと。 また、合意形成後、後期計画でどう施策展開していくのか、財政状況を勘案した検討をすること。			